

向陽

〒780-8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(088)833-4394 FAX(088)833-7373 <http://www.inforiyoma.or.jp/tosako/>



五十年前の 土佐中・高生活

28回生 前田典彦

◎おらかな先生と仲間

昭和二二年という戦後がまだ実感としてあり、公文俊平君のお父さんの戦死公報が入り、担任の山本直四郎先生と幹事男女数名が片地村までお悔やみに行きました。帰りに物部川でボートに乗り、そのうち石合戦を始めました。空中から投げるのでは避けられるので、だんだんムキになり水面をスキップさせ投げています。山本先生に当たりました。それで直ちに止めたのかどうか覚えていませんが、ボートを降りてみたら先生の足に傷ができていました。女生徒も先生のボートに乗っていたのですから考えてみると無茶な話です。おらかな先生の下おらかな仲間でした。

本格的な石合戦はいくら当時の高知とはいえ、あまり流行らなかつたようで相手として確かな記憶があるのは西山

忠利君だけですが、よく鏡川の川原で本気でやりました。一発目を緩く投げておいてそれを避けようとしているのを、速い第二弾で狙うというようなこともやりましたが、痛い目にあつたことも、あわせたくとも覚えていません。

◎クラブ活動―書道部―

中学時代一番熱を上げたのは書道部でした。まだ、伊野のような紙の産地だけでなく高知の市内にも肉筆の看板が残っていた時代で、地方書家だった小学校の栗山南翠先生の影響を受けて、私も大日本研精会の月刊誌「書之美」を講読して書いていました。これをベースに書道部を設立しました。全国レベルで比較評価され、良ければ進級するというのが魅力で、部員は急速に増えピーク時には七〇名を超えて中・高を通じて最大の部となりました。実物大のお手本を半紙の下に敷いてぞろぞろ私流のやり方は超初心者向きと思われるでしょうが、形はお手本に助けて貰って注意は専ら運筆と筆勢に集中するように利用すれば中級者には十分効果があり、通信教育だ

けて部員の腕前は急速に上がり、「書之美」には土佐中某々という名前が昇級者リストに毎号複数見られ、時には写真が載るほどになりました。書をなざる方にはその名をご存じの向も多いかと思いますが、「書之美」主宰の森田子龍先生を京都より招き多数の部員が見て頂いたり書いて頂いたりしたこと、創立三〇

年の展覧会で展示用の教室を取り過ぎて恰好が付かず、中国書道史というタイトルで徹夜で百枚余り書いて、何とか壁面を埋めたことなどが記憶に強く残っています。

当時でも部活動には顧問が必要でしたが、漢文の吉本先生は全く自由にやらせて下さいましたし、大嶋校長先生には特別な御支援を頂きました。高一になって廃部を決した時も大嶋校長先生に話すというのが日記に残っています。

部が大きくなると、毎月「書之美」を配ったり代金を集めたり投稿を集めて郵送したり、また、大部分が上級生が代表している他の部と予算の分捕り合戦をしたりして随分時間を費やしました。これでは勉強の妨げになるので、

高一の秋に高知大書道展金賞三名入選九名と「書之美」以外でも通用するようになったことを証明したのを置き土産として書道部を解散しました。

◎高校一年

これからは日記を利用してかなり正確なことを書きます。なお、全文を通じて鍵括弧は日記からの引用で、……はその間省略していることを示します。

土佐校は当時から進学校だったのですが、「河野先生の東京出張のお話」「東京では皆よく勉強している」とある。……目前に迫っていないのでピンと来ない」とあり、夏になると「終業式あり。校長先生は学力の低下について、中山先生は夏休みの諸注意……何といつても遊ぶことしか念頭にない……やれ遊べ山が呼んでる招いている……天狗堂で海女めがねを買う」と、およそ受験態勢に入った様子はありません。勉強に関しては「英語は懸賞問題ばかりやっている」「旺文社から万年筆とメダルが到着……」というくらいで、他方、遊ぶ方は、上ノ加江への蝦取り遠征、室戸への自転車旅行、仁淀川で

の蝦突き、和船（誰も櫂を使つた経験無し）を借りての浦戸湾一周等々が詳述されています。それぞれの日に友達の名前が詰まっているところから見て、誰も同じようなことだったのではないかと思います。

しかし、「五月も終わった。居眠りをする亀の如く私は進歩して行く。まず授業一般が難しい……夜遅くまでムクリ……」とか、「英語が難解である」とあり、授業自体がすっかりしていたと思われず。同じ頃「英英辞典を買う」、秋には「新々英文解釈研究を買う」「哲学用語辞典を買う」「新自習英文典を買う」と勉強の態勢作りも進み、二月になると「朝の補講をすっかり忘れていた。早く起きていたのに遅刻し残念。……放課後英語の補講が……」とか、「実力試験の成績悪し。捲土重来を狙う」とあるので、勉強も十分させられていたようです。私も、まずそれまでかなり熱心に通っていた柔道を止め、ついで書道を断念して対応しています。

六日雨……昼から市民図書館で「戦争と平和」の続きを四時間五百頁余り読む。……夜、毅郎チャンより借りた「赤と黒」第二巻を読んでもしまおう」というのも出て来ます。こういうのを並べてみると、歴年で四〇日に計三〇数冊になります。さすがに乱読の極みというところですよ。

映画は二〇回、これは平均より相当少なかつたと思えます。「凸凹シリーズ」から「靴みがき」まで、学校からも「赤い靴」や「ジャンヌダルク」に行きましたし、生徒だけで行くのに制約は無かつたようです。

日記に出てくるもので一番頻度の高いのは野球で、自分でやるもの、高校野球、プロ野球等々。これは当時の世相を反映したものでしょう。

◎高校二年

「英語の日記は実際大した負担だ。一応つづけてはいるが……」というのが三月にある。六月には日本語に戻ってしまったっています。長さも短くなっており、内容も試験の点数や見落としの反省の言、模試、実力試験等の結果等、

受験勉強を反映したものになっていきます。一〇月と翌年の一月には英数国三科目一、二、三年共通考査があり、上から一〇番までを取っても二〇番までを取っても、二年と三年が同数だったと記憶してありますが自分の成績しか書いてありません。普通の受験参考書も使っていた筈ですが、日記に出て来るのは岩切の微分積分学精説、社会思想史十講、英文原書等受験用の普通の参考書よりは一段上のものだけで、この年頃の街いが窺われます。

読書は、源氏物語、論語、易しい原書など多少受験を意識したものもありますが、乱読の対象、量は前年とあまり変わっておりません。他方、映画は二期期まで止めたこともあり、一〇回と半減しています。昭和二七年に入ってから禁じた映画を除き、まだ受験生活という感じはなかったようです。

夏休みには蝦突きに精を出しています。もつとも「再び仁淀川へ、相手変われど主変わらず」……我二三七匹、安倍六六匹……とあるので同級生はもう少し勉強していた

のだろうと思います。私自身は「西山五朗、久松と仁淀川。蝦はやや不調なれど大鯰二匹……」というのも含め、仁淀川四回、吉野川、種崎、桂浜、手結、鏡川と水に浸っていたようです。ドイツ語等の補習授業もあったのですが、そういう日には「学校のプールで泳ぐ」と書いてあります。

◎高校三年

正月から映画を禁じたのは前に書きましたが、三年に上ってアルバイトも止めました。夏の蝦突きも「今年は行かぬつもりであったのに、久松、山下先生とまた仁淀川に行く……蝦、鮒、あなごに饅まで混じってすこぶる大漁……」というのが一日あるだけで、「今年ほど好天のつづく年はない。僕が遊べないからだ。畜生！」と自粛しております。

野球は春休みに中学野球部二軍と二回熱戦をして止めました。もつとも、川上と同じ重さのバットを百本振るのは受験で上京するまで毎日続けましたし、「セ・パ対抗オー」ルスターは二一回二対二で引き分け四時間半つぶす」とい

うのがありますので、ラジオまでは禁じてなかったようです。卓球は七月に禁止宣言をしながら一週間も経たない内に解禁し、その後年内に一六回やっています。

体育の授業では、五月二日に「器械体操を始める」とあって、その後「蹴上がりがいきたす」とか「懸垂二一回」とか出て来ますし、六月には「体操の試験でネックスプリングがよく出来た」、一月に「サッカーを始める」とあり、土佐高最後の授業が体育で、サッカーで勝ったことも詳しく書いてあります。三年を通じてみればハンドボール、ラグビー、バスケットボール、バレー、徒手体操も教わりました。お蔭様で、運動は見るのもするのも一生楽しむことが出来まして、体育は土佐高に最も深く感謝している科目の一つです。

勉強の方は、「英通」とか「東大通添」とかがしょっちゅう出てきますが、やはり通信だけでは隔靴搔痒ということだったので、高松まで行っています。八月二四日「殆ど一睡もしなかった……高松高校はすぐ判った……進

適で少々考えていると眠く、頭がづきづき痛くなって数学の時最高になって結果は大いに不満。それでも来てよかったです。五時から一〇時過ぎまで高松市内をぶらつき一一時五分発で帰る」とありますが、百七のトンネルで窓から入ってくる煤煙をもととせず往復夜行で受験して来たのを思い出します。かなりの人数で行きました。三週間ほど後に結果が来て自信を付けたとあります。

学校の方は五月の修学旅行、六月のクラスマッチと通常に行事があり、二期期に入ってもいささかも変わらず「今度は運動会だ。いよいよ勉強を阻害するのは学校ということになりそうだ」と恨んでいました。しかしすぐ後で、「運動会はM組は聖家族と題する競技をする。我々は農民」「運動会気分が勉強どころかというところ」「明日が運動会。例年より期待大」と三日続いた後、「蒼天に雲片見えず校庭の万国旗風にはためく……千六百余の生徒互いに腕を競う……我々がやった聖家族は最好評しかも我班の篤農一家は……絶賛を博せり……」と

ありますから、相当に熱が上がつっていたことは間違いないですね。(写真を御覧下さい) その後も校舎復興落成式、卒業サイン交換、卒業式、卒業生を送る会のお返し之余興と、日記では勉強よりこれらに力が入っているようにさえ見えます。また、サイン交換には、誰もがかなりの時間とエネルギーを投入していたようです。私も、国語の西野先生に頂いたものを真似して次のを作りました。日記に残してはよく出来たと思つていたものでしょう。

公侯伯の位はなくも
文武に長けし生命あり
俊秀無比の才能は
平和望まぬ風雲児

出来るだけ多くの材料を集めそれを如何に削り捨てるかが物書きの腕の見せ所と言えます。以上は、材料に囚われて下手長くなった悪文の典型ですが、半世紀前の事実は私の感想や意見よりはましではないかというのが自己弁護の弁です。

(社団法人国際商事仲裁協
会理事長・東京都在住)



時は流れても

——共学一期生は思う——

28回生 青木洋子

老いと向き合って

平成十一年三月半ば、二年前に飛行機から下りたつた高知は冬の最中に逆戻りして、曇天の下めっぽう寒かった。しかしながら旅人である私に対し、土佐の人々は故郷の言葉で暖かく迎えてくれた。

世紀末、老人世代への仲間入りの門口に立ち、今までの越し方を振り返るのも悪くはないような心境に少し前から私はたち至っている。

そうしてこの度の帰省は、自分の老後の生き方を定めるためにほかならなかつた。小高坂の墓地に眠る両親の墓参りと、自らの永眠の地を見定めることの二つの仕事を果たすの旅であった。目的を果たして帰宅したときこの原稿の依頼が待っていた。そんな折でもなかつたら引受けるのを

固辞していたに違いない。

昨年四月、長年住み馴れた東京の家を処分し、思いきってケア付き高齢者住宅へ居を移した。

思えば四〇余年前大学を卒業したとき私が就職したのは東京都であった。知事の諮問機関である東京都社会福祉審議会の事務局へ配属され、老人福祉分科会を担当させられた。時代はまだこの問題への認識が浅かつた。

それから幾星霜、現在では高齢化問題が私達の生活に大きな影を投げかけている。私が高知の老人問題の真つたななかで生きる当事者となつて早くも一年経つた。私を我が子のように可愛がってくれる元女医と知り合つて、いわば疑似家族を演じ合つている。この虚と実の境目の曖昧な時代故にそれも一つの生の在り

方であろうか。

共学一期生の誕生

太平洋戦争終結間際、一人っ子の私を集団疎開に出すにしのびず、東京から帰郷して来た私達一家は、高岡郡黒岩村(当時)というかなり辺鄙な地に暮らしていた。私は野や山を駆け回り、たにしやざりがにを捕り、いたどりや椿の花の蜜に舌鼓を打つ、素朴で活発な女の子だった。

その子供時代の夢が破れたのは、がたびしラジオを通して聞こえて来た終戦を告げる玉音放送を境にしてだった。やがて六年生になって担任から中学受験を勧められたのは、土佐中の受付ギリギリの時点であった。

昭和二年(一九四七)四月、男女共学第一期生として、私は新制土佐中学校に迎え入

れられた。周囲には綺羅星の如く俊才が集っていた。

ところで土佐中初の男女共学の発足ということは、学校や上級生にとっては画期的な出来事であつたらしく、私達は終始全校の注目を浴び、大変な期待を寄せられていたようである。しかし当の本人達はそんなことには無頓着で、比較的鷹揚に育つていった。

今思い出すと冷汗が出るのだが、私が先生方にとつた反抗的態度も、実は自らの内の鬱屈したものの正体が見極められないためであつた。授業中わざと議論のための議論を先生方にふっかけたり、机の下に教科書以外の書物をしおばせてみたりと、先生方にはさぞお目障りであつたらう。しかしどの先生方も包容力があり寛容であつた。

心触れ合う“出会いの場”

このような師の恩に包まれ、六年間はあつと言う間に過ぎようとしていた。当時我が家は経済的に逼迫していた。数々の山本直四郎先生は下級生

の家庭教師を世話して下さつていた。それでも広い世界、東京へ飛び出したかった。学

費が安い国立大学なら可能に思えた。私の将来を思つて下さるが故に、女の子はお茶大の方がいいとか、多少“絵心”があつたため美術学校への進学を勧めて下さる先生方もおられた。そんな中で担任の松浦勲先生は静かに私の進路を見守り、応援して下さいました。そして今なお、出来の悪い教え子を案じて、毎年年賀状で励まして下さっている。

どうやら入学できた東大では楽しく充実した学生生活を送り、かけがえのない友人達にめぐり会えた。ところが卒業時には大きな障碍が四年制女子学生を待ちうけていた。就職試験を受けさせてくれる企業が皆無に近かつたのである。

やつと就職した都庁も夫の海外勤務に従うためには辞めざるをえなかつた。以後日本を出たり戻つたり海外生活を余儀なくされた。最後の赴任地ロンドンからの帰国後五〇歳を目前に、実地で習い覚えた英語の経験を買われ自立した。

学生時代英語は必ずしも得意分野ではなかつた。しかし知らず識らずの間に中・高生

時代に教わった、今ではもう時代遅れと言われているリーダー読解の手法が基礎を培ってくれていたようである。オーディオ・ヴィジュアルな教具はほとんど無かった時代であった。この基礎力なくして

私の英語への興味は開かれることはなかったであろう。現在は英語コミュニケーション学会に所属したり、大学時代からの仲間との協同作業の翻訳に取組んだり、英語から得られる喜びは尽きること

がない。土佐中・高時代に私が得たのは英語の基礎力を始めとする学力ばかりではなかった。それよりも先生方との触れ合いや友との出会いは何物にも代えがたいものであった。私

の身近には同期の吉村元秀・妻夫妻がおられ、その温かい家庭は訪う人を何時でも迎え入れて下さる。また在京の旧友達とは、共に学んだ頃の共通の思いで結ばれて親しくさせて頂いている。学生の皆さ

んもよく学びよく遊んで、いい友人を一杯作って頂きたい。私の漂泊の旅はこれからまだまだ続くことだろうが、土佐という最後の停泊地を得て心安らかである。

勇退する恩師から



大嶋校長の思い出

中澤節子

勇退する恩師から

当時の校長大嶋光次先生のお招きを受けて私が土佐高に赴任してまいりましたのは、四八年前のことであります。ひと口に四八年と言ってもその半世紀にも渡る歲月は決して短いものではなく、その間には数多くのできごとや想い出が、また沢山の出会いや別れがありました。今、もしその中で最も印象に残った人物は誰かと聞かれたならば、私は躊躇なく大嶋校長の名を挙げたいと思います。

戦災でプール以外はすべて

灰燼に帰し、もう土佐は廃校になるのではないかと、その存亡すら危ぶまれた学校を再建すべく、日夜東奔西走、御自身の生活も、健康さえも犠牲にして今日の土佐高の礎を築かれた先生は、優れた教育者であると同時に卓越した経営者でもありました。既に肺気腫という病に犯され始めていたにもかかわらず、出張でもない限り日に一度は校内を巡視されていた鶴のように瘦せた御姿が、今なおはつきりと目の前に浮かんでまいりま

す。「私は今まで何人も先生を雇って来たが、唯一回の面接で採用を決めたのはあなただけだ」と言われて舞い上った自分を思い出しますが、ともかく人を使うのが上手で、厳しいけれど情のある方でありました。校長のその情について私には忘れることのできない思い出があります。

土佐高に参りまして丸一年たった昭和二十七年に、家庭の事情でどうしても五万円というお金が必要となりました。今の貨幣価値からすれば当時の五万円は五百万円にも当る大金です。夫は戦死し、戦災で焼け出され、二人の幼児と母を抱えたその日暮らしの私にとっては到底調達できぬ金額です。悩んだ末、意を決して大嶋校長に訴え、事情を話して五万円を貸してくれるようお願い致しました。黙って話を聞いて下さった校長は、「よろしい、そのお金をお貸ししましょう」とその場で承知して下さい、西山事務長を通じてボンと即金で用意して下さいました。



回想抄

伊藤 進
(丘城)

でのサインです。曾我部校長先生も同じです。

木下栄吉

私が土佐中学・土佐高等学校とご縁ができましたのは、昭和四四年四月からですが、その年の三月も末日に前任者の木下栄吉（古径）先生がひよっこり訪ねてくださり、若い君にバトンを渡したいとのこと、大変驚き、恐縮したことでした。

健康が優れないのでは非共受けてくれと申され、清水寺から飛び降りるおもいで決断したことでした。

ここに掲出させて頂いた筆蹟は、昭和四五年夏、第一回個展の会場においでくださっ

着任後まもなく上町五丁目北側のお宅にご挨拶にうかがいますと大変喜んでくださり、土佐の生徒さんのこと現在の教育界のこと等、諸々の高説を承わり時の過ぎるのを忘れていて気が付くと三時間半を越していました。

さいふ市街・セニハ

るお新はれ

着任後しばらくして知ったのですが、曾我部校長先生は奇しくも吾北出身で同郷であり、時々親しくお話も伺うことができました。

校長先生の晩年から整理部長を命ぜられたのですが、大変な儉約家でホーキ一本でもなかなか許可が降りませんでした。古い校舎の時代に、校長室にうかがうと英字新聞を読んでいたのですが、真っ白い椅子のカバーにミシンでつくろった跡がたくさん見えて驚きました。

それから二、三年たって偉

容誇る現在の校舎が完成しました。



土佐高の自由を尊び、個性豊かな人間づくりの校風は真に素晴らしいものです。

辞任の挨拶で「個儻不羈」について申しましたが、司馬氏は「個儻」というのは自分の考えをしつかり持つこと。

「不羈」は、放れ駒のような人、人に御せられない人」といっています。土佐高にびつたりの言葉だと思えます。

丁度三〇年、大変永い間お世話様になりました。心からお礼を申し上げてペンを描きます。



昭和62年作 個儻不羈 170cm×170cm 丘城作

回想……夢……

平岡竹彦

昭和三二年のこと、初出勤で配られた行事予定表のぎつしり詰まった行事に戸惑い乍ら、週二二時間の授業が始まった。四クラスずつの中二、三年全クラス、他に高一の二組三種類の教材と、六百八十

人余りの生徒との初対面を経て、緊張の連続の一ヶ月後の五月連休の頃は、くたくたになり、五月病による高熱も出た。

あれから四〇数年、今年の大形連休は優雅(?)にのん

高知県内の公立高校を普通科、実業科含めて数校教えてきた経験から比較して土佐高生を見た感想を述べてみます。先ず赴任最初の年の運動会に感動しました。皆が真面目に取り組む、最後まで全員諦めない、競争でビリの者も最後まで一生涯懸命走る。そのずつ



私の見た土佐高生

武 樋 速 雄

と遅れて走っている生徒を皆が拍手で応援するのは感激しました。他校ではビリの生徒は力を抜いたり、照れ隠しに茶化して走ったり、またそのふざけをはやしたてたりする者が多かったからです。土佐高では奇声を発したり、変なことをして目立ちたがろう

とする者は全然いない。そんなことをしても周りには受けない。やはり知的レベルが高い。ヤグラ作成での団結力も素晴らしい。各色特色のあるものがいつの間にもやら完成している。取り壊しに苦労するほど頑丈にできている。取り片づけにもみんな協力し、

黙々とやっている。片づけは作るほど面白くないが、ここで人柄が分かると思う。今世間でよく言われているような、無気力、無感動、無責任という言葉は土佐高生には当てはまらない。

他校の生徒を見てみると、服装、態度などでなんとなくだらしのないものがよく見受けられるが、土佐高生にはそれがない。清潔である。やはり内にある知性が外に表れるからであろう。人の顔の美しさはその造作よりは内にあるものの輝きが外に表れたものであるが、土佐高生には美しい

びり過ごすことができた。市営コートも空いているので、連日テニスの練習と家庭菜園の楽しみ。時間と心身の余裕は隔世の感があるなあと、繁忙時を避けての旅行を夢み乍ら六月の到来を待った。

そんなある日(五月二十九日)久しぶりに土佐校の夢をみた。中三生と修学旅行に行ったのであるが、途中付添いの自分が、迂闊にも、乗り物からふり落とされ、旅行団を追って必死にもがき焦って難渋して

いる夢から、冷や汗まみれで、やっと眼醒めた。夢に関して苦しい思い出がある。小学三年生頃だった。綴り方”の時間は苦痛の種であった。ある時、夢を作文の題にして書き上げた。内容は推して知るべし。筋の飛躍が多くて理に適わぬ上、眼醒めと共に忘れて、まともな夢であったろう。その後は味をしめて、”夢・夢”で綴り方OKとピンチを切り抜けていたあ

る時、担任の先生から「よく夢をみますね」と朱筆されて、創作夢物語は終焉を迎えた。みた日を鮮明に記憶している夢が一つある。一九八九年六月二十四日土曜、内容は単純で恥ずかしいものだが、舞台は安芸郡安田町の県道を北から南に歩いてくる俳優の裕ちゃんに出会ったというものだ。彼はその二年前の七月に他界していた。内容は別として、珍しい夢だったので、家内に告白した。その日の朝のニュ

て師事する程で、ひばりの歌をリクエストすると、プロ跳の名調子で、抜群の歌唱力である。今となつてはもう時効の話、M君は案の定、ひばりの逝った翌週の月・火は学校に來なかつた。後日「どうした」と尋ねると、私の師匠の演歌師君は、にこにここと「お姉様の喪に服していました」その天衣無縫ぶりが、羨ましい限りであった。

恩師の想い出コーナー

中沢先生に感謝をこめて

39回生 森木房恵



「なかばあ」のえんま帳

ねー」と半世紀を振り返る

九月の教壇中学校から、太



「金儲けしてしまおうと

思ってたんですけど、周囲

から『四十八年あゆむの記

「教えることが大好きで教

できるのが先生の授業で、騒

中沢先生に教えて

卒業後は建物も先生も変わ

唯一背筋を伸ばしていきいき

LONG LIFEWORKのお手本

いつまでも私たちの心の中で教鞭を

51回生 奥田麻子

私の土佐中生活は、中沢先生で始まった。入学式で出会ったときの衝撃：今思えば同性としての刺激的な部分もあったのかも知れないが、「女性」のこれまでのイメージが打ち砕かれた日々が早々に始まった。普通、「女性」は暖かさ、柔らかさの中に厳しさと強さがあるようなものだと固定観念があったのだが、先生は、逆に強さの中に、柔軟さ、優しさ、こよない暖かさがあった。

中学三年で土佐に入ってそのうちあれこれ挫折感からいつまでたってもみんなに追いついていけないのでは？という不安におそわれはじめたときに、先生は、なぜだかそれを察知してくれて、ある日そっと呼ばれた。（この「そと」がすごく暖かくてたまらなかった）

そのころは、「愛と誠」の漫画がはやり、私は靴のかかとを踏み、カバンを友達とつぶして、何となく粹がることで自分のやりきれない気持ちをつつばっていた部分もあった

たのだが、それに対し、中沢先生は、「はなちゃん（先生は、必ず生徒同士の愛称をしつかり把握して、それで私たちを呼んでくださった。そうやって私たちの中にもいつも高いところにとどまらず降りてきてくださった）よう、ちくとカッコえいかもしれんけど、靴がかわいそうな気もするねえ」といつて、私たちを目の前で直させるようなことはせず、にっこりと立ち去るのであった。「はなちゃんよう、シャツのボタンをそこまではずしたら、なかなか色っぽいねえ」「はなちゃんよう、シャツのしわもカッコえいかもしれんけど、わたしやあしわがのびちゆう方が素敵に見えるけんどねえ」私は、その場で正せといわないで、少しそれをやらせてみてくれる中沢先生のことをとても好きだと子供心に思った。そして私は、少しくさくさするときは粹がって靴のかかとを踏むけれど、そうでないときは靴はちゃんとほくようになつていくのである。中沢先生のいうふうにならんと、ボタンダウンシャツでしわを着こなすのをやめて、アイロンを自分であてて

いくと、先生はめざとく、「おつ、今日は素敵じゃん」と声をかけてくる。私も、「はい、自分でかけました」「おつ、えらいねえ」：そのひとり一人をいつも見て下さる気持ちは、成績が振るわなくて葛藤していた自分に対し、先生の笑顔とともに立ち去られたあとに、先生の残像をハッキリと残した。

私はそつと先生に呼ばれ、「どうしたん？」の一言に胸がいつぱいになり、涙が目からあふれ、なにも言えなかった。私が靴のかかとを踏むこと、スカートたけのこともなく、私の疲れ、その他へのいたわりであった。涙が止まらなくなった私に先生は、「編入考査で、はなちゃんのことを、すこくこうとらんよ。この子はできる子やと私は思うてるよ」と肩に手を置いて締めくくった。時間にすれば、ものの五分だったのだろうか。しかし、このとき私はおそらく人生が変わったのである。自分は土佐なんかに向いてなかったなどと思っていた自分をそんな目で見ていてくれた人がいた、私の成績を見て、よく知っているのに！ それ

が私の土佐中学校での最初の担任の先生であったことは、私の自分のツツパリという支えよりもっと強力であり、私にはほどなくツツパリは必要ではなくなってしまう。私には、親と、そして中沢先生がいた。「土佐の先生は、すこい」と思った衝撃の最初の一年間は、そんなふう過ぎていったのである。

先生方への絶大な信頼は、私があなたの担任だと包んでくださった中沢先生に始まり、波紋状に広がっていった。中沢先生がいった。「そりゃあ、〇〇先生に頼んでみいや。力になつてくれるよ」名物先生達同志は、単なる同僚ではなくてお互いを尊敬もしていたのを、私は先生方とのやりとりからも知っている。その中で、彼らが私のために、一言二言かわしあってくれているのは、本当にうれしかった。生徒として幸せだった。

（前田診療所院長）

平成11年度大学入試のまとめ（6月12日現在）



武両道

国立大学

大学	現	浪	計	進学	昨年比
北海道	1	2	3	1+2	4
東北	4	4	4	4+0	
山形	1	1	1	1+0	
茨城	2	2	2	2+0	1
筑波	1	1	1	1+0	4
埼玉	1	2	3	0+2	2
千葉	4	1	5	4+1	1
東京	2	3	5	2+3	5
東京医歯	1	1	1	0+1	
東京学芸	4	4	4	3+0	5
東京工業	2	2	2	0+1	1
電気通信	2	2	2	2+0	2
一橋	1	1	1	0+1	1
横浜国立	4	4	4	3+0	1
福井	1	1	1	0+1	
山梨	1	1	1	0+1	
信州	1	1	1	0+1	1
岐阜	1	1	1	1+0	1
三重	1	1	1	1+0	1
滋賀	1	1	1	1+0	3
滋賀医科	1	1	1	1+0	
京都	3	1	4	3+1	7
京都教育	2	2	2	2+0	1
大阪	6	3	9	6+2	2
神戸	4	3	7	4+3	4
島根	1	2	3	1+2	1
島根医科	1	1	1	1+0	
岡山	3	6	9	3+6	10
広島	6	3	9	5+3	4
山口	1	1	1	0+1	1
徳島	1	1	2	1+1	5
香川	1	1	1	0+1	1
愛媛	1	2	3	1+2	3
高知	23	3	26	16+2	14
高知医科	7	2	9	7+2	17
九州	1	1	2	1+1	
長崎	1	1	1	1+0	
熊本	1	1	1	0+1	
琉球	1	1	1	0+1	3
計	89	47	136	78+43	
昨年	77	47	124	72+42	

公立大学

大学	現	浪	計	進学	昨年比
東京都立	3	2	5	3+2	2
横浜市立	1	1	1	0+1	6
京都府医	1	1	1	0+1	1
大阪府立	2	2	2	2+0	2
大阪府立	1	1	1	0+1	
岡山県立	1	1	1	1+0	1
下関市立	1	1	1	1+0	1
高知女子	4	1	5	3+1	2
九州歯科	1	1	1	1+0	
長崎県立	1	1	1	1+0	
計	13	6	19	11+6	
昨年	17	9	26	13+6	

私立大学

大学名	現	浪	計	進学	昨年比
千歳科技	1	1	1		
酪農学園	1	1	1		2
獨協	1	1	1		2
文教	1	1	1	1+0	
岩手医科	1	1	1		
明海	1	1	1	0+1	
千葉工	1	1	1		
青山学院	5	8	13		5
亜細亜	1	1	2	0+1	
学習院	8	2	10	2+0	
北里	2	2	2		4
共立女子	1	1	1		
共立薬科	1	1	1	1+0	1
国立音	1	1	1		
慶應義塾	8	9	17	7+3	21
工学院大	1	1	1		
國學院	2	2	2		3
国際基督	1	1	1	1+0	1
駒沢	1	1	1		
芝浦工業	2	2	4	0+1	1
上智	8	7	15	3+3	2
昭和女子	1	1	1	0+1	
成蹊	1	1	1		5
成城	1	1	1		
専修	5	5	5	0+1	1
創価	1	1	1	0+1	1
多摩	1	1	1	1+0	
中央	5	3	8	4+1	11
津田塾	2	2	2	1+0	2
東海	1	1	1	1+0	1
東京医科	1	1	1	1+0	
東京経済	1	1	1	1+0	
東京工芸	3	1	4	2+1	
東京女子	1	1	1	1+0	3
東京造形	1	1	1	1+0	3
東京電機	3	3	3	1+0	2
東京農	2	2	2		
東京理科	14	7	21	5+0	15
東洋	2	2	2		2
日本	7	8	15	3+5	19
日本社事	1	1	1		
日本獣畜	1	1	1		
法政	6	2	8	3+1	6
星薬科	1	1	1	1+0	1
武蔵工業	7	2	9	2+1	1
明治	8	4	12	2+3	12
明治学院	2	2	2		
明星	2	2	2		
立教	6	2	8	4+0	4
早稲田	15	16	31	12+3	32
麻布	1	1	1	0+1	3
神奈川	2	1	3	1+1	2
神奈川工	1	1	1		
フェリス女	1	1	1	1+0	
帝京科学	1	1	1	0+1	
愛知医科	1	1	1	1+0	

大学名	現	浪	計	進学	昨年比
愛知学院	1	1	1		4
愛知工	1	1	1		
中京	1	1	1	0+1	1
日本福祉	1	1	1	0+1	
藤田保健	1	1	1	0+1	
鈴鹿医療	1	1	1	0+1	
成安造形	1	1	1		
京都学園	1	1	1		
京都産業	2	1	3		3
京都薬科	1	3	4	1+1	7
同志社	12	5	17	4+1	16
同志社女	1	1	1		
佛教	2	2	2	1+0	
立命館	23	22	45	6+4	23
龍谷	2	2	2	0+1	7
追手門	1	1	1		1
大阪医科	1	1	2	1+0	1
大阪学院	2	2	4	1+1	3
大阪経済	1	1	1	0+1	2
大阪工業	1	2	3	1+0	2
大阪産業	1	1	2	1+0	
大阪薬科	1	1	1	1+0	6
関西	9	6	15	3+1	19
関西医科	1	1	1	1+0	1
関西外語	1	1	1		1
近畿	7	7	7	0+2	10
摂南	1	1	2	1+0	1
阪南	1	1	1		
桃山学院	1	1	1		
関西学院	16	12	28	6+1	19
甲南	2	1	3	1+0	7
甲南女	1	1	1		
神戸学院	5	2	7	5+1	3
神戸薬科	4	4	4	3+0	2
宝塚造形	1	1	1	1+0	
姫路獨協	1	1	1		
流通科学	1	1	1		1
帝塚山	1	1	1		
奈良	1	1	1		
岡山理科	2	2	2		6
川崎医科	1	1	1	0+1	1
広島国際	2	2	2		1
徳島文理	3	3	3		
松山	2	5	7	0+1	5
高知工科	9	9	9	4+0	19
九州共立	1	1	1	0+1	
西南学院	2	2	2		
計	235	197	432	106+51	
昨年	204	198	402	88+57	

短期大 その他

学校名	現	浪	計	進学
山野美芸	1	1	1	1+0
京都芸短	1	1	1	0+1
京都市短	1	1	1	
高知短	1	1	1	1+0
土佐女短	1	1	1	1+0
海外大学	3	2	5	3+1
防衛大	4	4	4	2+0
防衛医科	1	3	4	0+3
専門学校	3	3	3	3+0
計	14	7	21	11+5

《医学部合格者数》

- 【国立大】 滋賀医科、大阪、島根医科、愛媛2、高知医科6
- 【公立大】 京都府立医科
- 【私立大】 岩手医科、慶応、東海、東京医科、愛知医科、藤田保健衛生、大阪医科2、関西医科、近畿、川崎医科
- 【その他】 防衛医科4



同窓会よりご寄付いただいた楽器です。
誠にありがとうございました。
これからも頑張ります。

(左端が森田校長、右端が顧問の鎌田と松本です)

文武

両道

ガッツだ!! 優勝だ!!

県体 燃えて栄冠 バドミントン男子団体連覇達成



勝者だけの特権

頂点を極めた瞬間に似るのは、勝ちもやむを得ない。勝者だけの特権だ。何百、何千、何万と繰り返されるその瞬間に、いつも新鮮だ。(伊野町の県体少年体育館)



バスケットのボードもアクリルに……
昨年は全国総体の練習会場になりました

インターハイ予選を兼ねた高校県体で、昨年に続き団体2連覇を果たしました。3年生で固めたメンバーの思いのこもったこのポーズ。高知新聞(5月30日)に掲載されたものです。

【高校県体】

- 陸上 … [男子] 400mリレー：優勝/200m：優勝・2位
400m障害：2位/800m：4位・6位
[女子] 200m：3位/100m：3位/400mリレー：3位
- ハンド … [男子] 優勝
- バスケット … [男子] ベスト4
- 剣道 … [男子] 団体：3位/個人：ベスト8(2名)
- 柔道 … [男子] 個人100kg級：優勝
- バドミントン … [男子] 団体：優勝
個人複：優勝・3位/個人単：2位・4位
[女子] 団体：4位
- テニス … [男子] 団体12位/個人単：4位
[女子] 団体：3位
- 弓道 … [男子] 団体：4位
- 登山 … [男子] 優勝
- 自転車 … 4kmチームパーシュート：3位/オリックスプリント：3位
- サッカー … 3位
- 野球 … 優勝(土佐・岡豊2校優勝)
- 水泳 … [男子] 50自：2位/100自：2位/400個メ：2位
400リレー：3位/800リレー：3位
[女子] 50自：優勝/100自：2位

【中学市体】

- バスケット … [男子] ベスト4
- バドミントン … [男子] 団体：ベスト4/個人単：ベスト4
[女子] 団体：ベスト4/個人単：2位
- テニス … [男子] 団体：ベスト4
[女子] 団体：優勝
- 卓球 … [男子] 団体：ベスト4
- 軟式野球 … 2位
- 水泳 … [男子] 200自：優勝/200個メ：優勝/400リレー：優勝
[女子] 1年50平：優勝

登山

土佐17年ぶりの栄冠

田81
土佐は17年ぶりの2度目の優勝

▽男子 ①土佐86・8(行) ②土佐86・8(行) ③知識 ④今治西86 ⑤今治西86 ⑥池田 ⑦池田 ⑧池田 ⑨池田 ⑩池田 ⑪池田 ⑫池田 ⑬池田 ⑭池田 ⑮池田 ⑯池田 ⑰池田 ⑱池田 ⑲池田 ⑳池田 ㉑池田 ㉒池田 ㉓池田 ㉔池田 ㉕池田 ㉖池田 ㉗池田 ㉘池田 ㉙池田 ㉚池田 ㉛池田 ㉜池田 ㉝池田 ㉞池田 ㉟池田 ㊱池田 ㊲池田 ㊳池田 ㊴池田 ㊵池田 ㊶池田 ㊷池田 ㊸池田 ㊹池田 ㊺池田

▽女子 ①松山南85・7(行) ②松山南85・7(行) ③松山南85・7(行) ④松山南85・7(行) ⑤松山南85・7(行) ⑥松山南85・7(行) ⑦松山南85・7(行) ⑧松山南85・7(行) ⑨松山南85・7(行) ⑩松山南85・7(行) ⑪松山南85・7(行) ⑫松山南85・7(行) ⑬松山南85・7(行) ⑭松山南85・7(行) ⑮松山南85・7(行) ⑯松山南85・7(行) ⑰松山南85・7(行) ⑱松山南85・7(行) ⑲松山南85・7(行) ⑳松山南85・7(行) ㉑松山南85・7(行) ㉒松山南85・7(行) ㉓松山南85・7(行) ㉔松山南85・7(行) ㉕松山南85・7(行) ㉖松山南85・7(行) ㉗松山南85・7(行) ㉘松山南85・7(行) ㉙松山南85・7(行) ㉚松山南85・7(行) ㉛松山南85・7(行) ㉜松山南85・7(行) ㉝松山南85・7(行) ㉞松山南85・7(行) ㉟松山南85・7(行) ㊱松山南85・7(行) ㊲松山南85・7(行) ㊳松山南85・7(行) ㊴松山南85・7(行) ㊵松山南85・7(行) ㊶松山南85・7(行) ㊷松山南85・7(行) ㊸松山南85・7(行) ㊹松山南85・7(行) ㊺松山南85・7(行)

勝因はチームの和

〇十七年ぶりに四国一になった登山男子の土佐。2位の今治西とはわずかに0.2ポイント差だった。

例えば、テント設置のベグの打ち込みが甘いとか、通過時刻メモを念とマイナス0.5点。ほんのわずかのミスで逆転だ。「よく頑張った。いい練習しているとは思ったが、まさか1位とは……」と岡松監督も驚き隠さなかった。

勝因は県大会と同じコースで地理的把握が有利だったこと、昨年の地元開催だった全国総体強化の財産で、何より主将の3年生、小野寺を中心にチームワークが抜群だったのが大きい。

全国総体は昨年、地元でありながら17位。悔しさをバネに一けた台で、できれば6位入賞を目指したいという。

振興会の現況と活動

会長 北 島 清 彰

土佐中学校土佐高等学校振興会は学校を支える強力な支援団体として昭和二十一年四月二二日に設立され、その後土

佐中高が困ったときに振興会が動く、資金は出しても口は出すな状態が長く続きました。平成四年四月に振興会会長が田村恭昭氏に変わられ、大進学率の低迷を危機的状況と捉えた田村会長は振興会を強力な支援団体にするために振興会活動を活性化し、着実に成果を上げてきました。田村会長の熱烈なる母校愛は周知の事実で、なんとか土佐中高をもっともつと高いレベルの進学校にしようと振興会会員の意識改革、振興会本部の組織再編に取り組みました。現在の本部役員は会長一名、

副会長三名、監事二名、理事五名で運営しています。そして組織を総務委員会、広報委員会、進学委員会の三委員会に編成して活動を続けています。平成一〇年三月三十一日で田村会長がご勇退され、田村会長の「後をよろしく」の言葉と役員全員の推挙により平成一〇年四月より北島が会長を務めさせて頂いています。一方、田村前会長在任中から議論されていきました土佐中高の先生方の講義が判り易いか否かの評価を一年近くに渡って本部役員、支部長会で議論し、賛否両論議論百出して悩みに

悩んだうえ、講義に関して振興会会員を対象にアンケート調査を行なうことになりました。平成一〇年一月に実施、一月中旬に結果はまとまりました。実施にあたり振興会会員から励ましやお叱りも受けましたが、全体の四分の三の先生方が判りやすい授業をしているとの集計でした。この結果についてはさすが土佐中高の教育陣だと思いましたが、しかし問題点も浮き上がってきました。近いうちに土佐中高を良くしていくために学校側と話し合いを持つ予定でいます。その中でアンケートの結果についても話し合いたい

と思っています。広報委員会は「向陽の空2号、土佐の群像1」を発行、進学委員会は毎年六月に大学進学に関する講演会を行なっています。また振興会の年間予算は生徒さん方の教育、体育振興の支援につかわれています。本部役員：会長 北島清彰、副会長 小谷匡広（広報委員長）、高野嶺子（進学委員長）、射手典夫（総務委員長）、会計監事 二山孝司、高木いずみ、理事 毛山章、野崎りつ、畠山寛、浦田比奈子、国見直樹の一名で運営しています。（平成二十一年六月）



男子生徒も調理実習
家庭科の授業風景です



本年度より中学棟にも冷房完備



「白」「黒」「黄色」何それ????
トッピングありの食堂メニュー
弁当・焼ソバ・おにぎりもあります

支部だより



「向陽曼陀羅」

40 回生西村繁男氏寄贈
旧校舎がなつかしい

関東支部

事務局 鶴和 千秋
(41 回生)

高知の皆さん今日は。関東二千六百余名より、近況をお知らせ致します。

昨年七月「関東支部名簿一九九八年版」を発行し、関東支部会員全員に配布するとともに、母校並びに同窓会の本部、各支部にもお届け致しました。発行後約一年経ちましたが、既に五百件以上の更新情報が届けられ、時代の流れの速さと、同窓の活動範囲の広さに驚かされています。

支部会報「筆山」は数えて二五号となり、昨年暮れ発行致しました。この号より西岡恒憲新編集長(41回生)に引継がれ、コンピューターを駆使した紙面編集で、関東支部ホームページにも掲載される

ようになりました。二六号は目下編集作業中で、間に合いましたら八月の高知での同窓会総会でご覧いただけるものと思います。

今年の支部総会は、六月一日(土)に渋谷区代々木のオリピック記念青少年総合センターで行なわれました。今年傘寿を迎えられた3回生の進藤貞和さん(三菱電機相談役)から、この春土佐高を卒業した74回生まで約三百人の顔、顔、顔……。中でも例年どおり会費タダで招待した新卒業生は五〇人を越える参加があり、若さと重厚さをミックスした大同窓会となりました。

今年の記念講演は、あの「ファイナルファンタジー」「聖剣伝説」でお馴染みの、家庭用ゲームソフトメーカー、最大手(株)スクウェアの武市智行社長(49回生)に『夢への挑戦』と題して、世界のファミユーズメント産業を目指す大いなる「夢」を熱っぽく語って頂きました。

また懇親会には、母校、同窓会本部、各支部からのご来賓の方々に加え、土佐中・高時代ご指導いただいた、古谷俊夫先生はじめ、母校より浜

田俊充教頭、得竹耕司先生、西川正信先生をゲストにお迎えし、卒業後の教え子達の活躍ぶりを見ていただきました。来年平成一二年は、五月二七日(土)に同じ場所で開催する予定です。企画運営を担当する末尾0の卒業年次(30回生、40回生、50回生、60回生、70回生)の各幹事は、楽しい心温まる総会にすべく、今からアイディアをしぼっております。

ふるさと高知からも是非ご参加下さい。お待ちしております。

東海支部

事務局長 南 毅一
(37 回生)

やっぱり「土佐弁」がエエ

私共が期待していた通りのドラゴンズのセ界となりました(但し六月初現在)。名古屋経済は徐々に上昇カーブに入りましたが、郷土土佐の皆様、全国の皆様、来年こそステツアップの年になりたいと思います。

そんな中、東海支部の総会

を開催。歳がいくと「イザル」方がエエとの長老のご意見に従い、土佐料理「ねほけ」名古屋店に参集していただきました。

「来年は八〇周年ですゾネ」と学校からは森本教頭。

「本部もちゃんと会報を作りユウキニ」の山崎・大久保両副会長。

「今日、土佐ノ海は勝ち越しました」とご挨拶のオモシロイ、関東の溝渕幹事長。

「ワシヤ、野球のことしかわからん」の元スター永野関西支部長。

支部事務局のやり方等いつもご指導下さる広島支部の小島事務局長。

まさに土佐高OBのキラ星の面々と東海支部メンバーが杯を交えながら「オンシヤとオレが……」「ヤルかえヤラシカえ……」時間が経つのも忘れる白熱土佐弁バトルでした。そこにはなつかしいミニ高知の世界がひとときの間、確かにありました。来年もこのスタイルで続きをヤルキニ、元気でイトウセヨとお開きとなり、夜はトッピーと暮れました。

尚、この総会で松崎支部長及び下山幹事長が退かれ、それぞれ顧問に就かれ、新支部長には大高坂秀雄氏（31回）が満場一致で推挙されました。新しい支部役員の顔ぶれは次の通りです。

支部長 大高坂秀雄（31回）

幹事長 竹原泰明（36回）

計担当兼務 村山文世（41回）

幹事 東京へ出稼ぎ中、花の単身赴任 山崎博司（44回）

たかが水、されど水、水こそ生命 市川尚孝（51回）

土佐料理「ねほけ」のオヤジ 天造豊彦（52回）

某大手ビルメーカー社員、校歌担当 二神良太（33回）

会計監査 しっかりチェックしています。ゴルフ大好き 「わかしやち」編集長 内田順子（？回）

孫はいません。川柳詠み 事務局長 南 毅一（37回）

使い走り

遠足も県外へ行く時代に……今春高一は砥部動物園（愛媛県）へ行きました



関西支部

なんぶう
編集長 森岡 周作
(31回生)

毎年関西支部総会は、一月末の土曜日開催であったが、本年の総会は、母校の卒業式とか、各支部総会と重複の関係など、諸般の事情により、二月一九日金曜日開催となりました。

関西支部総会開催の度に、同窓会本部・母校ほか関係の皆様方からご支援・ご協力戴きまして有難うございます。

この二、三年総会出席者が減少の傾向にあり、幹事一同頭痛の種です。

記念講演・景品抽選会・母校関係のビデオ映写等を、過去実施済ですが、何か起爆剤になるヒントを、皆様方より提供ご協力お願い致します。

「なんぶう」（関西支部情報誌）第二〇号は、本年一月頃二千五百部発行予定ですが、前回第一九号は、初のカラー化にて発行いたし好評を博しました。

活字は、数年前より大きい文字にて印刷致しておりますので、先輩諸氏には、読み易いとご好評を戴いている次第で、将来の高齢化社会の先取りを自負致しております。

内容的には、第一面故郷の香りを掲載（過去代表的な記事は、世界の電車が走る街・高知県立美術館訪問・考える村紹介等）、第二面は、各方面にて活躍の同窓生訪問記、あとは、母校・本部・各支部よりの「たより」を掲載致しております。今後皆様方よりのアドバイスを戴き、内容を充実致したいと思っております。

最近故郷にて、親類等の祝い事・法事が多発のため、帰郷する機会が増え、高知駅にて白線姿の後輩を見る度に、汽車通学（私も須崎駅より六年間通学）の青春の一ページを思い出します。

当時、文武両道・報恩感謝の精神を諸先生に教えて戴き、少しでも前進することを目標に頑張った時を、思い起こしましたが、最近の母校情報では、前述の精神が、多少薄れて、各方面での母校の活躍（文武両道）が、減少している感じがしているのは、私だけではないと思います。

今後、母校関係者及び同窓生全員にて、文武両道・報恩感謝の精神を見直そうではありませんか!!



中学校での修学旅行がなくなり今年より2泊3日の集団研修となりました。(中3 渋川青少年の家にて Cutter 研修中)

広島支部

事務局長 小島 一洋
(31回生)

(31回生)

支部だより

広島支部の事務局を夫婦でヤラサレ始めて今年が二二年目である。モーいい加減にしろもらいたい。夫婦がいくら男女共学の同窓会だからと言って、事務局を二二年も続けることは全く異常である。俺達夫婦は、同窓会の便利屋ではない。それに、支部総会の案内を出しても、出欠の返事すらもらえない同窓生が約半数である。何が文武両道の建学精神のある同窓会か。社会マナーすら身につけていない同窓生が一杯いることは残念だ。

同窓会の事務局をやらないと体験できないようなメリツト、例えば、超一流の人物、人材の諸先輩に、あたかも兄弟の如く親しくお目にかかることができるなどは、そのメリツトの典型例である。啓発されることは多い。是非、他の方々に輪番制でも事務局の責任者として数年はやって下さるようお願いしたい気持ちで一杯である。

敢えてこのようなホヤキを述べさせていただいたのは、本部においても、他の四支部においても、この体質と実態は同様だと思うからである。純粋な同窓会活動を目指し、少なくとも自選でやって下さる同窓生が、甲子園を目指すチームメンバー位の人数は出ていただきたい。土佐中・高の同窓とすることが素晴らしい、名譽と思うなら、また、土佐中・高の同窓会を愛しているなら愛している程、この辺は自然にできる筈だと思う。大変に高い所から苦言を呈したようで、その点は同窓生にお詫び申しあげたい。生意気なことをヌカすなどお叱りを受けそうなことは百も承知で、この拙文を支部だよりに代えて、香川支部総会へ向かうマリナーの車中でしたためさせていただいた。

ところで、この五月に「しまなみ海道」全通で、南北軸交流活動がますます盛り上がる気運になっている。近いうちに、松尾高知市長を広島支部にお迎えして、ご自身が歩んで来た南北軸交流につき、うんちくを傾けたお話を承る

機をプロデュースさせていただきます。瀬戸内しまなみ海道(尾道—今治ルート)は、広島県の向島や愛媛県の大三島をはじめ主要六島を十の橋でつなぐもので、全行程を車はもちろん、気ままに走ったりもできる。個性溢るる観光資源や肌理細かい人情味、たまらなく美しい島の情景を島伝いに、皆さん訪ねられてみては如何だろうか。その時は、広島支部同窓会員との温かい交流を、是非スケジュールの中に織り込んでいただければ幸甚です。

広島支部会員約一五〇名は、広島・山口両県で活躍しています。

香川支部

支部長 土田 哲也
(32回生)

香川支部総会へ向かうマリナーの車中でした

様のご出席を賜りました。支部会員は二五回生から六四回生まで三一名が出席して、若干の会則の改正と役員全員の再任が承認され、その後懇親会に移りました。来賓の方々

に盛り上げて頂いて、有意義な初夏の一夜となりました。香川支部は発足から三年を迎えるところです。この間本部と各支部の総会に出席させて頂いたり、会報を拝見して活動振りを学んできました。その結果、香川支部でも遅ればせながら会報を発行して情報発信しようということになり、総会の承認を得て今準備をしています。

支部活動にとつて戸惑うのは、支部の役員が人事異動で次々と転出することです。勿論有能な後継者がきちんと支えてくれていますので支障はありません。既に発足時の幹事長、会計監査が交代していますが、今年三月には事務局長役の幹事であった山下雅生氏が転勤したため、六二回生の寺田裕二に交代しました。去る人がいる反面、他支部の地域から転入して来られる人もいます。したがって、人の入れ替わりを前向きに捉え、

その時々同窓生が気軽に旧交を温める場を提供していくのが支部の役割と心得るべきかもしれません。若い同窓生を集めるのも課題ですが、情報を得にくく困っています。高松に移住する人をご存じの方はお知らせ下さい。

五月一日に三番目の本四架橋が開通し、四国と本州の交通体系はまた大きく変わりました。かつては、土讃線、宇高連絡船のルートが交通の主な手段であったのが、今は空路、高速自動車道が主流になりつつあります。それにつれて、高松市の地理的存在感も薄れつつあるように思います。土讃線の利用者も低下傾向のようです。各支部の地域に在住されている人は、どの手段を選ばれるのでしょうか。先

行きが少し心細い地ですが、活躍している同窓生も沢山います。偶には途中下車して、私達に声をかけて下さい。大阪、広島は、JRで二時間、高知は自動車で一時間半です。お待ちしています。(会報誌「かけはし」は六月に創刊いたしました)

本部活動報告

●一九九八年度総会

一九九八年八月八日(土)高知新阪急ホテルにおいて、73回生を含む多数の同窓の出席を得て、総会、記念講演ならびに懇親会が盛大に行われました。

総会では岡村会長が、会報誌「向陽」に掲載の母校吹奏学部の楽器の不足、老朽化による窮状に対し、同窓会として資金的援助をすることを提案して承されました。

記念講演は、49回生で家庭用ゲームソフトの大手(株)スクウェア社長の武市智行さんによる「夢への挑戦」というテーマで、スクウェアの代表作品「ファイナルファンタジーI」から最新作の「ファイナルファンタジーVIII」に至る、画質の鮮明度とリアルな動きと表情の変遷・開発技術の進歩を実際のTV画面でビジュアルに解説、夢を持ち、夢を語ることに、そしてその実現に向かつてチャレンジすることのすばらしさについて、グロ

ーバルに躍進を続けるスクウェアを舞台にお話しいただきました。

懇親会は、松浦前校長、森田現校長をはじめ、町田先生(前会長)、中沢先生他多数の先生方も出席され、尚武会(剣道部のOB会)のあたたかい司会進行のもと、和気あいあいのうちに新旧同袍盃を交わしつつ思い出話に花を咲かせ、応援歌を合唱、母校にエールをおくり再会を約しました。

●会報誌「向陽」

一九九八年七月、創刊号で産声をあげた本部の会報誌「向陽」は、ここに第二号を発刊することができました。これは偏に、編集に携わっていただいた在校幹事の先生方をはじめ、母校、振興会、各支部ならびに同窓各位のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

●会員名簿

五年毎に改訂している同窓会会員名簿の二〇〇〇年版は来年発行の予定で、今年度中にその準備に取りかかります。会員のみなさんには、調査そ

の他でご協力をいただかなければなりませんので、どうぞよろしくお願いいたします。なお、現在の本部役員は次のとおりです。

会長	岡村 甫 (32回)
副会長	山崎和孝 (26回)
同	浅井伴泰 (30回)
同	大久保浩二 (32回)
同	森木房恵 (39回)
同	川崎康正 (42回)
幹事長	岡内紀雄 (34回)
副幹事長	永野和宏 (34回)
同	横田整二 (40回)
同	西山彰一 (48回)
会計	千頭 裕 (58回)
会計監査	森木将雄 (32回)
同	田中章夫 (40回)

平成10年度物故者名簿

平 10・5・18	上島 紳介 (54H)
10・6・22	横山 昌幸 (63H)
10・9・27	福岡 啓助 (32H)
11・1・2	谷脇 恵太 (69O)
11・2・10	濱口 一男 (5)
11・2・13	田村 恭昭 (25)
11・3・22	九郎座謙三 (34O)
11・3・29	中澤 博 (32K)
11・4・7	千頭 孝明 (31O)
11・5・24	籠尾 豪夫 (29H)
11・3・30	田島 睦夫 (35S)
11・1・3	高井 茂 (40K)
11・5・13	中川 春水 (旧職員)
	岡部 緑 (◇)

「戦争と偶然」執筆のお願い

—歴史の流れに、もまれつつ、
あゆみ、歩んだ、思い出の記—

副題の前半に「歴史の流れに、もまれつつ」とありますが、歴史上の裏付けとして、公的な資料、各学校宛の、勤労奉仕の通達、勤労働員の通達、これらの綴じ込みを調べる必要があります。この作業に出掛けたのは、何年何月何日であった。これが欲しいのです。……

副題後半の「あゆみ、歩んだ、思い出の記」なぶん、半世紀を越えておりますので、すこかった局面は、脳裏に焼き付いていても、ほかのことは、あいまいになったり、記憶から消えてしまっておりま

す。この小冊子の文中にも、

そこ、ここに「記憶が消えている」「覚えが無い」などと書いてありますが、その箇所のところを言己隠されている方に、是非、執筆をお願いしたいのです。……

最終版は、表紙には「旧制土佐中有志」として、22回、24回の方でも、執筆していただける方の、文を加えたいと考えております。

自費出版、非売品。編集は私が務めます。

〒781-0241
高知市横浜新町5-1501
窪田 寛 (23回)
☎088-842-2166

編集後記

会員や先生方のご協力で立派な原稿を頂き、無事第二号が完成しました。感謝申し上げますと共に、紙面の都合で全部を掲載できなかったことをお詫び申し上げます。今回で現編集委員会は解散し、三号以下は後進に委ねます。

在校委員：土居 徹 (32)
岡田容典 (47)
鎌田圭子 (47)
小村 彰 (49)

本部委員：山崎和孝 (26)
岡内紀雄 (34)
永野和宏 (34)

ありがとうございます。

警告 同窓会の会員名簿調査は、電話では行っておりません。ご注意ください。